

安泉寺ハザード会だより 6. 1号

◆3月27日～29日まで、二泊三日で能登の被災地を訪れました。高校生2名、大人3名の5人が参加しました。最終回は3日目、3月29日の報告です



3日目 中野静梨奈

輪島に行く道は地震の影響で隆起したところや工事中？か何かで通行止めになり一方通行になっていたところがあった。山も大きく削れているところがあったので地震の影響でがけ崩れが起きたのか？輪島の道の駅からちらっと見えた線路が大きく波打っているように見えた。輪島朝市の火災があった場所では家屋は跡形もなく焼けていて車も中のシートがなく、骨組みだけの状態だった。陶器でできた茶碗などは火災で焼けなかったのか残っていた。震災の二次災害は津波や液状化だけでなく火災のことも考えなければいけないと思った。

裏面に続く↓



まとめとして 野呂美道

3日目は輪島市の朝市通りの惨状を、静梨奈さんの手記を元に、写真で構成しました。生々しい様子は、写真では分からないものです。御巢鷹山に慰霊登山をしている檀家さんの言葉、「現場に立て！」というのが一番明確に、今回のレポートの趣旨を表わしていると思います。その場の空気や臭い、気温や気圧、まわりの状況など、自分の五感で感じられるすべてのものが、大切な現場体験となって、今後の自分の生き方に影響するのです。

私たちは、この体験を一度きりにすることなく、ゆっくりでいいから、持続的に行ってゆくつもりです。そして、現場から学んだ多くのことを、来たるべき「東南海地震」の備えとしたいと思います。

5月23日、私は再び、宝幢寺さんで、ボランティアをする機会を得ました。持続できることに喜びを隠せません。この報告はいずれ致します。また、市に対しても、一刻も早く、避難場所を作っていただけるよう生徒と共に歩いてゆくつもりです。ご理解ください。